

・区分	11000	ハード部門（土木）
タイトル	スキベルト（発砲ウレタン）を利用した簡易救命衣	
動機・改善前の状況	<ol style="list-style-type: none"> 1．傾斜護岸端部敷石作業時、救命浮環は作業が行われている近くになければならない。 2．バディーシステムでは最低2人が一緒に行動し、お互いに近くになければならない。人が近くにいないければ緊急事態に、仲間が助けることが不可能になる。 3．ライフジャケットはよい選択ではない、なぜならば、シンガポールの気候は大変暑く、異常熱がある。例えば熱波は私達が直面している懸念である。また、膨張性タイプのライフジャケットは雨が降ると簡単に膨らんでしまう。 	
改善・実施事項	<ol style="list-style-type: none"> 1．傾斜護岸端部で作業する場合、スキベルトは全てのグループによって使われなければならない。スキベルトは浮くことの補助であり、ライフジャケットの代わりに使用されるわけではない。それは上に述べたように救命浮環とバディーシステムが当を得たもので無ければならない理由である。 2．傾斜護岸端部で働く人の近くに救命浮環を置くこと。スキベルトを着用することとまた作業中に十分な水を飲むことの重要性を作業者に教育すること。 	
改善効果	<ol style="list-style-type: none"> 1．作業員達が苦情なしにスキベルトを着用している。 2．スキベルトの使用は簡単で、作業員の動きを妨げない。 3．ライフジャケットの着用と比較して、大変涼しい。熱中症の発生が大変減少している。 4．したがって、作業員の健康によく、作業が効果的に実施されうる。 5．救命胴着を身につけない場合に比較して、スキベルトは役立っている。もし、人が突然水中に落ちたら、スキベルトは人が浮く事を助ける。他の人が救助する事を可能とする。 	

活動内容
改善事項の図、
写真



傾斜護岸部でのスキベルト使用状況



作業場近くにおける救命浮環の設置



スキベルト (ski belt) 長さ 100cm

事例提供先

東亜建設工業(株)